



# いきいき鯨っ子

最長兄姉保護者 様 附属小学校便り4月号② 児童：611名

☆教育目標：リーダー性を備えた「生きぬく力」の育成

☆4月の生活目標：「気持ちのよいあいさつ」をしよう。



附属小 Facebook

平成29年4月13日（木） 執筆者：校長 中尾 聡彦

## ○雨の入学式（4月10日）

今年は、例年になく桜の花が咲く中での入学式を迎えました。あいにくの雨となりましたが、校内には期待に胸を膨らませた新1年生の笑顔があふれていました。新1年生のみなさん、そして保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。

7日（金）の朝、校門で子どもたちを出迎えていると、数名の新1年生が保護者の方と通学の練習をしていました。ある女の子は涙をいっぱいためていました。慣れない1人の登校、しかもバス通学……。それは不安で仕方がないでしょう。涙も出るはずですが、



こちらが声をかけようとした時、保護者の方がかけられた言葉が印象的でした。「大丈夫、みんながんばって学校に来ているでしょう。あなたもがんばれる！あなたもできる！」子どもは不安を抱えながらもがんばらねばと思っていたのでしょうか。その気持ちに寄り添いながら、そっと背中を押してあげる。こんな声かけができると子どもは親の愛情を感じながら1つ1つ壁を乗り越えていくことができると思いました。

また、入学式の翌朝（11日）も雨でした。初めての登校が雨……。天気のことから仕方がないのですが、少し責任を感じながら校門で子どもたちを出迎えました。しかし、想像していた以上に「鯨っ子」はたくましい姿を見せてくれました。真新しい大きなランドセルを背負い、傘をさし、帽子は落ちそうになりながらも自分の力で登校してきました。その姿が見えなくなるまでNHK前の信号機付近で2人の保護者の方が見送られていました。少しのことではくじけずがんばる子ども、やる気に満ちあふれている子ども、そして、その姿を見守る親の姿、あらためて大切な611名をあずかる責任を感じたところです。

入学式も終わり611名がそろいました。未成熟な子どもたちですから、いろいろなことがあると思います。時には傷つき、涙することもあると思います。その時に、我々大人（教師や保護者）が子どもの気持ちに寄り添いながら抱きしめてあげたり、そっと背中を押してあげたりしながら、「リーダー性を備えた『生きぬく力』」を育てていきたいものです。保護者の皆様、1年間どうぞよろしくお願いたします。

## ○附属学校の入学式に出席して

附属学校（附属幼稚園、附属中学校、附属特別支援学校）の入学式に出席して様々なことを考えさせられました。1つは、あらためて歴史と伝統を大切にしてきた学校であるということです。特に、附属中学校の入学式は凜とした雰囲気の中で挙行されました。緊張した面持ちで入場する1年生、それを附属中学校の生徒であるという誇りをもちながら迎える2・3年生。制服や髪の流れもなく、厳粛な中に式は進みました。昨年度、小学校の学校評議員会で次のような意見がありました。「附属小学校の子どもであるという品格を大事にして欲しいと思います。最近、女子の髪が気になります。帽子をかぶることができないような髪結び方はいかがなものかと思います。2つ結びにするなど、以前から守られてきたルールがあると思いますが・・・。」

時代の変化に左右されることのない不易なるもの。これまで附属学校が受け継ぎ、大切にしてきた「誇り」「品格」を今一度見直していきたいものです。

## ○人事異動について(追記)

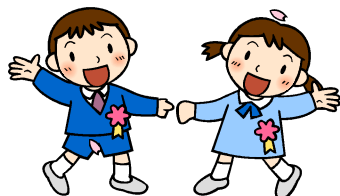
学校便り「いきいき鯨っ子」の第1号で人事異動について報告をしたところです。その中で、次のことについての記述を失念しておりました。大変失礼しました。

事務担当 佐野哲也さん（3月付けで退職）

松尾 訓さん（4月1日付けで新規採用：前佐賀大学学務部教務課長）

### 4月の主な行事

14(金) 学年・学級育友会、交通教室  
18(火) 全国学力・学習状況調査  
20(木) 代表委員会、25(火) しゃちっこ集会  
28(金) 学年育友会（5・6年）、授業参観  
育友会総会



### 5月の主な行事

2(火) 1年生を迎える会、歓迎遠足  
3(水) 祝日：憲法記念日  
4(木) みどりの日、5(金) 子どもの日  
8(月) 夏服移行期間（～19日）  
9(火) 全校朝会、しゃちっこ委員長会議  
15(月) 運動会練習開始  
26(金) 運動会準備、28(日) 運動会  
29(月) 振替休日、運動会予備日  
30(火) 全校朝会  
31(水) 知能テスト

## <ちょっとひといき>

最近、とても大切なことだと思っています。1つのことに打ち込むことは大切ですが、ふと気づくと大切なことを見落としていたり……。何より「クスッと笑える」心の余裕が大事だと思います。その第一弾は、私の幼少期の出来事です。

私は、伊万里保育園に4年間通いました。両親が共稼ぎということもありましたが、母の話では本当の理由は他にあったそうです。現在の容姿からは想像できませんが、幼い頃の私は病気がちで気が弱く……。極めつけは、同年齢ぐらいの女の子が近寄ってきただけで泣いていたそうです。母は「このままではいけん。女の子が近寄ってきたくらいで泣きよっては……。何とかせんば！」一母が出した結論は、保育園にあずけるということでした。ところが私は、毎朝泣きながら母と別れ、嫌いな給食時間はピアノの裏に隠れ、泣き疲れて昼寝の時間を迎える毎日だったそうです。母は私の家内に言います。「ごめんね、私があの子ばあがんでてしもうて。こがんなるとは思いもせんやった。」どういう意味なのかは分かりませんが。子どもには、少し厳しい環境の中でこそ身につけていく大切なものがあるということなのでしょう。